



寒さが厳しいと家にこもりがちになります。冷たい空気に触れることで自律神経は鍛えられ病気に負けない身体を作るため、天気の良い日は積極的に外遊びをしましょう。2月から3月にかけて花粉が多くなる季節です。花粉症の症状は風邪と似ていてまぎらわしいです。気になるときは、小児科や耳鼻科を受診しましょう。

ほけんの予定

2月17日(月) 発育測定 (0.1歳児)

2月18日(火) 発育測定 (2歳以上)

1月の感染症報告

インフルエンザ 溶連菌感染症
コロナウイルス りんご病

食物アレルギーのあるお子さんの書類提出について

食物アレルギーに関する除去食対応には、年に1回の生活管理指導書の提出が必要です。かかりつけを受診していただき、**3月7日(金)まで**の提出をお願いします。新たに食物アレルギーと診断された場合は、園にお知らせください。

子どもの花粉症について

大人の病気と思われがちですが、子どもも花粉症になります。花粉症の症状があっても、熱がないなら大丈夫と油断しがちです。花粉症の症状が長く続くと、不快だけでなく様々な問題を招く恐れがあります。早めに受診しましょう。

花粉症三大症状

鼻水鼻づまりが続く

くしゃみができる

目をこする



花粉を家に持ち込まないために

外干ししない

花粉が多く飛ぶシーズンは、洗濯物を外に干すのは控えましょう。

玄関で脱ぐ

外から帰ったら、コート類は玄関で脱いでつるすなど、室内に花粉を持ち込まないようにしましょう。

服からも取り除く

衣類をはたくと、花粉が舞い散って逆効果です。粘着テープなどで取り除く、花粉がつきにくいツルツルの素材の上着を選ぶなどがおすすめです。

年長児

MRの追加接種をお願いします！

今年度内に6歳になる年長児は、MR(麻しん・風しん混合)ワクチンの2期追加接種の時期にあたります。

まだ接種していないお子さんは、小学校入学までにかかりつけの医療機関で接種を受けるようにしましょう。

節分の豆の誤嚥にご注意を

2月3日は節分の日。豆まきは楽しい行事ですが、いり豆は窒息の原因となりやすい食べ物です。のどにつまらせたり、くだけた豆が気管に入り、誤嚥を生じることがあります。5歳頃までは食べさせないようにしましょう。



花粉と接する機会を減らそう

花粉に接する機会が多いほど、花粉症になる可能性が高くなります。花粉が増えるシーズンは、治療と予防をかねて、身の周りの花粉との接触を減らしましょう。